

# かすが市民懇話会提案書

かすが市民懇話会

平成19年2月5日



## はじめに

あっという間の2年間でした。会議も2ヶ月に1度のペースだったので、詳細に論議する時間がありませんでしたが、とりあえず、2年間の成果をまとめて、市への「提案書」を作成いたしました。

「かすが市民懇話会」では、『春日市をより住みよいまちにするには、どうしたらよいか?』というテーマについて、この2年間、皆さんと話し合いを行なってきました。

地域活動の視点から、市民生活の視点から、行政職員の視点からと様々な角度から改善点を議論しました。話し合いを継続していく中で、会員間の認識の相違や市政に対する情報不足など、いろいろなことが浮かび上がってきました。

30人の会員が一堂に会しての“自由な懇談会”ですので、いろいろな意見が出され、これらの意見をひとつにまとめること自体が大変な作業でしたが、わたくしにとっても、この2年間は、とてもいい懇談の機会でありました。

さて、この提案書は、自助(わたしたち市民が個々にできること)、共助(わたしたち地域自治会でできること)、公助(行政として支援・協力ができること)に分けて、提案させていただきました。

まず、あいさつ運動や地区行事への積極的な参加などは、誰にでもできることです。これは、今後、わたくしたちが実行していくこととなります。

また、地域リーダーの育成や地区行事のイベント企画の見直しなどは自治会に携わっておられる方々へのお願いです。

そして、公助です。この項目が市への提案となります。その中では、まず、地域の内情に精通した職員の育成や地区担当窓口(市職員)の設置、市職員の地区行事への積極的な参加などを提案しています。また、広報等による地区活動先進事例の紹介や「かすがコミュニティプラン21行動計画」の確実な実践なども提案しています。

これらの項目は、どれも実行可能なものばかりです。できるものから実行していただきたいと思います。

最後に、この提案書の作成にあたっては、1期生の古川さんに大変お世話になりました。事務局との打ち合わせから提案書作成までお疲れ様でした。この場を借りまして、お礼の言葉を述べさせていただきます。

平成19年2月

かすが市民懇話会

第1期生会長

金子昌隆

## 感謝のことば

行政と市民とが、お互いに手を握り合い、「よりよい春日市を創っていくこと」を目的として発足した「かすが市民懇話会」は、平成 16 年 7 月 1 日に 20 名で発足しました。その後、10 名の会員が加わり、現在は、市民公募会員 20 名、団体推薦会員 10 名の 30 名の会員で運営しています。

振り返ってみますと、このような懇話会は、初めての試みでした。最初の頃は、「この先、どうなることか？」と心配したりもしましたが、回を重ねるごとに、議論も熱をおびて、現在では、なんとか、軌道に乗りつつあると感じています。

これまでの市民懇話会の論議を総括してみますと、大きく、二つの流れがありました。そのひとつは、地域の連帯感が薄れてきたことによる様々な問題です。

最近、高齢者の孤独死や家庭内における親子の傷害事件等が新聞で報じられています。このような記事を目にしますと、「地域や家族のつながり」の必要性を、ひしひしと感じます。そんな中、「あいさつ運動」や「声かけ、呼びかけ、投げかけのまち“かすが”」など、身近な提案がなされました。

さらに、地域の問題としては、自治会への未加入者問題がありました。ある自治会では未加入者が増加傾向にあり、自治会運営に頭を痛めているということです。マンションや集合住宅が多い自治会では、深刻な問題になりつつあります。

このような中、福岡市や宗像市においては、地区世話人制度の見直しが行われました。春日市においても、この問題は、今後、研究検討を重ねてまいります。

もうひとつは、よりよい情報伝達のあり方について論議がなされました。市報のあり方やホームページ、また、自治会の回覧版や隣組の問題も熱心に論議がなされました。この情報の伝達の問題は、自治会組織のあり方とも深く関わっています。

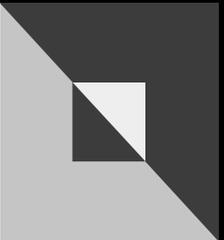
さて、今回、1 期生のみなさまから、卒業するに当たって、5 項目の提案をいただきました。これらのご提案を実行できるものから、行政に生かしていくよう努めてまいります。

また、「かすが市民懇話会」の活動の中では、市政に関する屈託のない意見を自由に発言していただき、ありがとうございました。今後とも、このような雰囲気大切にしながら、運営していきたいと思えます。

最後に、市民と行政との「協働の輪」が春日市全体に広がっていくことを願って、感謝の言葉とします。

平成 19 年 2 月

春日市長 井上 澄 和



# かすが市民懇話会提案書 も く じ

1	かすが市民懇話会概要	1
2	第1期会員からの提案	2
3	今後の課題	3
4	提案の実現に向けて	3

## 【資料編】

・	かすが市民懇話会会議録	5
・	かすが市民懇話会第1期会員レポート	25
・	かすが市民懇話会会員名簿	37

# 1 かすが市民懇話会の概要

## (1) 設置目的

『かすが市民懇話会要項』に記載されている設置目的を以下に示す。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

## (2) 基本的な活動内容

『かすが市民懇話会要項』に記載されている基本的な活動内容を以下に示す。

春日市をもっと住みやすくするために、市民の視点で捉えた市の課題を行政と協働して解決していくための方策を話し合う場である。庶務は、行政管理課が行う。

かすが市民懇話会は、次に掲げる活動を行い、市長は、提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努める。

- ・ 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- ・ 市政の運営に関する調査及び研究
- ・ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

## (3) これまでの懇話会の活動

### ア 平成 16 年度

- (ア) 「もっと暮らしやすい春日市にするための改善提案」について 2 班に分かれて討議。

討議内容については、第 2 回かすが市民懇話会会議録を参照。

- (イ) 「地域の連帯感を取り戻すための対策」、「行政情報伝達方法の見直し」をテーマとして 2 班に分かれて討議。

討議内容については、第 3・4・5 回かすが市民懇話会会議録を参照。

### イ 平成 17 年度

- (ア) 「ごみの減量化」、「自治会組織の見直し」、「一日一万歩運動推進」、「地域ぐるみの子育て支援」をテーマとして 4 班に分かれて討議。

討議内容については、第 9 回、10 回、11 回かすが市民懇話会会議録を参照。

- (イ) 第一期会員からの提案のまとめ

「地域住民の交流と連帯感を高めるための方策」について。

提案事項については、次項の「2. 第一期会員からの提案」を参照。

## 2 第一期会員からの提案

私たち第一期会員は、この2年間、様々な課題をテーマに設定し、課題解決のための方策を検証してまいりました。

これらの案件の中から、私たちのまち「春日市」を、より一層住みやすくするために取り組むべき最重要課題として、「地域住民の交流と連帯感を高めるための方策」を選定いたしました。

私たち個人ができること、地域でできること、行政にお願いしたいことに区分し、提案としてまとめました。

その他の課題に対しての、私たち第一期会員の見解につきましては、「かすが市民懇話会」会議録抜粋をご参照ください。

### (1) 自助（わたしたち市民が個々にできること）

- ・ あいさつや声かけ運動
- ・ 地区行事への積極的参加
- ・ 向こう三軒両隣とのコミュニケーションの活性化
- ・ ボランティア活動に対する感謝

### (2) 共助（わたしたち地域自治会でできること）

- ・ 自治会、公民館組織の見直し及び活性化
- ・ 地域リーダーの育成
- ・ イベント企画の見直し（地区住民からの企画提案の募集）

### (3) 公助（行政として支援・協力ができること）

- ・ 地域の実情に精通した職員の育成
- ・ 地区担当窓口（市職員）の設置
- ・ 市職員の地区行事への積極的参加
- ・ 広報等による地区活動先進事例の紹介（市報等で定期的に）
- ・ 「かすがコミュニティプラン21 行動計画」の確実な実践

### 3 今後の課題

- ・ 提案に対しての市の考えや取り組みの結果等については、進捗状況の確認を継続的に行っていく必要がある。
- ・ 提案の具体的な実行については、行政関連部署、各種団体、事業所等との効果的な調整方法について検討する必要があり、事務局と詰める必要がある。
- ・ 懇話会は自由な形式となるので、話し合い結果の整理や進行状況の確認を行わないと拡散する可能性があり、話し合い結果の記録や入念な進行管理に留意して進めていく必要がある。

### 4 提案の実現にむけて

この提案書は、一市民の立場から、ごく普通の市民の視点で、市民の皆様にご共感していただけるよう作成いたしました。

この提案にあるような様々な活動を、ともに実践していただき、個人の活動を家庭の皆様にも、家庭での取り組みを地域に、地域の活動を春日市全体に、広げていただくことを心から願っています。

また、行政におかれましては、市民の皆様がこれらの活動を実践していくのに最適な環境の整備と、『かすがコミュニティプラン 21 行動計画』を始めとする各種計画の円滑な遂行をお願いいたします。

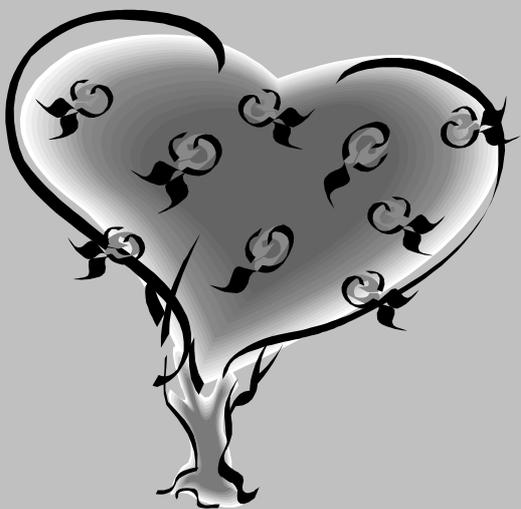
私たちが『かすが市民懇話会第一期会員』として、この提案の実現に向けて、具体的な実践行動に結び付けていき、取り組みを進めていきたいと考えていますので、多くの市民の皆様にも是非、一緒に実践していただきたいと思っております。

## 資料編

かすが市民懇話会会議録  
(抜粋)

かすが市民懇話会第1期会員  
レポート

かすが市民懇話会会員名簿



## 第2回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成16年9月22日(木)
- 2 時間 14:00~16:10
- 3 会場 405・406会議室
- 4 会議の内容

討議テーマ：もっと、もっと、暮らしやすい春日市にするために、わたしは、ここを改善する！

【1班】 討議内容：防犯、地域の連帯感、情報の伝達方法等について	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・春日市の情報が掲示板、インターネット、回覧板等の方法で、市民に流されているが、なかなか「情報」として伝わっていない。</li><li>・情報を市民が読んでいるかどうか疑問である。 春日市には様々な団体があり、それぞれに活発な活動を行なっている。このような団体の会員が「地域の情報源」になってほしい。</li><li>・まずは、「住民自身の意識改革」が必要だ。</li><li>・最近、地域の「連帯感」が薄くなった。これは問題だ。 なんとかならないものか・・・。</li><li>・やっぱり、地域の連帯感が必要。青少年補導のため、夜に見回るとき、1人では怖い。警察に通報しても遅い。 そんなとき、地域住民がぱっと集まれたらいい。</li><li>・地域の連帯感が薄れてきたのに関連するが、自治会への未加入者が多くなった。対策はないのか。</li><li>・地域の防犯に、自衛隊OB、新聞配達員、牛乳配達員等を活用できないか。</li><li>・子ども会活動が衰退している。</li><li>・最近の青少年に対する犯罪は問題だ。自主防災組織を作らなければ・・・。 自治会も積極的になっていただきたい。</li><li>・やはり、「情報の伝達」と「地域住民の連帯感」が大切だ。</li></ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民の側にも責任はあるが、春日市の情報が市民に伝わっていない。 自治会への未加入者も多くなって、いよいよ、情報が伝わりにくい状況にある。 自治会組織も含めて、情報の伝達方法を再度、考え直してみたらどうだろうか。</li><li>・青少年の犯罪防止に関しては、地域の連帯感が足りない。どうしたら、地域の連帯感を呼び起こせるのだろうか。</li></ul>

<p>【2班】 討議内容：『春日市のここが好き、ここが嫌い』というテーマから、よりよい春日市にするための方策について</p>	
<p>好きなところ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地として、福岡市に近いし、中央機関に近い。</li> <li>・高齢者のための、「福祉サービス」が充実している。</li> <li>・健康のための運動施設が充実している。</li> <li>・出前トーク「市長と語る」があり、市民の声を反映する場がある。</li> <li>・「あんどん祭り」がある。文化活動も活発である。</li> <li>・憩の場として、大きな公園が2つある。知名度も高い。</li> <li>・図書館が充実している。</li> <li>・断水がない。</li> </ul>
<p>嫌いなところ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路事情が悪い。いきいきプラザの駐車場が狭い。</li> <li>・水道代が高い。（贅沢は言えないが、安くならないか）</li> <li>・住民の親密度が薄い。都市化が進み、地域の連帯感がない。</li> <li>・少年補導員、防犯ついで隊等、防犯については、縦割りではなく横のつながりを持っていただきたい。</li> <li>・地域の各種団体への加入率が低く、地域とかかわりをもたない人が多くなった。</li> <li>・環境問題に対する取組が少々甘いのではないか。（住宅地の草刈、生ごみ減量対策）</li> <li>・これはマナーの問題であるが、ペットの管理が悪い。</li> <li>・災害発生時の避難の周知が徹底されていない。（避難場所の表示など）</li> <li>・自治会や公民館の行事を盛り立て、改善していく人材が少ない。</li> <li>・財政上の問題。（今の状態でいいのだろうか）</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市化が進み、地域の連帯感がない。また、犬や猫のペットマナーも悪い。地域づくりと環境問題が今後のキーポイントだと思う。</li> <li>・自治会への加入率が悪いし、公民館行事を盛り立てる人材も育っていない。自治会組織の活性化も考えてほしい。</li> </ul>

<p>【3班】 討議内容：これからの春日市は、どんなところを改善していったらよいのか。</p>	
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春日市の都市基盤は整っている。スポーツ文化活動にしても盛んである。行政からも、いろいろな情報を発信している。しかし、この情報を受け取る側の市民が無関心ということもある。これからは、行政の情報を、どのようにして、市民に伝達していくかが、大きなポイントである。</li> <li>・公民館活動に携わっていて思うのだが、いくら楽しい行事を企画しても、この企画を住民に知らせるのが大変だ。回覧板や市報を丁寧に見る人などいない。結局は、口コミしかない。これからは、情報を伝える方法を考えるべきだ。</li> <li>・春日市は面積が小さく、住宅地がほとんどで、住みやすい。ハード面は、ほとんど整備されている。これからは、ソフト面に力を入れてほしい。それと、やはり、地域の連帯感が必要。これからは、情報伝達と地域住民の連携が課題である。</li> <li>・九州大学大学院と陸上自衛隊、航空自衛隊をもっと、活用しては・・・連携を図りながら、協力し合えば、いいアイデアが浮かぶのでは・・・</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政からの情報を、いかに市民に伝達していくかが重要なキーポイント。それも、正確に伝達すること。</li> <li>・地域活性化のために、連帯意識の高揚がもっとも大切。どうしたら、連帯意識を呼び起こせるかを・・・真剣に、話し合ったらいい。</li> </ul>

<p>【4班】 討議内容：『春日市のここが好き、ここが嫌い』というテーマから、よりよい春日市にするための方策について</p>	
好きなところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童サービスで、6年生まで預かってくれる。</li> <li>・道路の清掃が徹底している。</li> <li>* その他、作文の抽出資料と同じことが発言された。</li> </ul>
嫌いなところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春日市は縦社会。横の連携がない。(輪がない)</li> <li>・自治会長の任期に、制限がないところがある。 地域の活性化に任期が必要。</li> <li>・地域にしても、行政にしても、田舎的な感覚がある。 土地の人が強い。</li> <li>・ボランティア連絡協議会やボランティア団体の連携がない。</li> <li>・市民バス「やよい」が遅くまで動いていない。 (通勤等にも利用できたらいい)</li> <li>・道路が狭い。また、信号機の移設を考えたらいいところもある。</li> <li>・学童保育に看護師がいない。</li> <li>・問題が起こったときに、何を、どこに尋ねていったらいいのかわからない。</li> <li>・人口のわりには、派出所が少ない。</li> <li>・外灯が少なく、暗い所がある。</li> <li>・制度の「型」に、人を当てはめすぎる。(臨機応変さがない)</li> <li>・施設は多いが、どう使ってよいかかわからない。</li> <li>・図書館の新刊が少ない。 家庭にある新刊の寄附ができるシステム作りが必要。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の市民が、自ら動いていけるような支援が必要だ。 また、市民の意識改革も必要である。</li> <li>・地区、行政、人の連携こそがもっとも大切。</li> <li>・歩道や環境のその後の見直しが必要。</li> <li>・公共施設の利用の仕方、情報提供のあり方を、もう一度、洗い直す。</li> </ul>

<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人との連帯感が薄い。自治会組織をみていると、常々、そんなことを感じる。情報伝達がうまくいかないで、今のところ「口コミ」しかない。いかにして、「住民の連帯感」を作っていくかが課題だ。</li> <li>・行政の情報を市民に知らせる手段はいろいろありますが、いいアイデアはないのでしょうか。情報マップみたいなものはできないか。</li> <li>・行政の情報は、住民には流れているが、読んでいる様子がない。また、住民も、困ったときに、どの窓口へ相談にいけばいいのかわからない。市や自治会組織が、もっと、市報、回覧板等の利用の仕方を教えることも大切だと思う。</li> <li>・市内の掲示板の活用を再考してみたらどうだろうか。また、回覧板を見直して、もっと、「魅力のある回覧板」にできないか。</li> <li>・住民ひとりひとりの認識を変えなければならない。そうするためには、どうするか。これからは、いい情報を拾い上げ、住民ひとりひとりが横の連携を深めていくことが大切である。</li> <li>・制度をうまく利用している人と利用していない人がいる。公共施設の利用、福祉サービスの利用など、利用の方法がわからない人に、もっと、理解できるような伝達方法が必要であると思う。</li> <li>・防犯、青少年の非行、児童生徒の登下校の犯罪などは市民の連携がなければならない。どうしたら、市民の連帯意識を取り戻せるか。大きなポイントだと思う。</li> <li>・個別に見ると、行政はそれぞれの施策をきめ細かく行なっているが、市民はそれを知らない。今後は、ソフトに力を入れていくべきではないか。</li> </ul>
------------	--

### 第3回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 16 年 11 月 19 日（金）
- 2 時間 14：00～16：10
- 3 会場 405・406 会議室
- 4 会議の内容  
討議テーマ：
  - ・行政のさまざまな情報を市民に、わかりやすく、正確に伝えるための伝達方法を見直してみよう。
  - ・地域の連帯感を取り戻すための対策はないか。妙案を考えてみよう。

【1班】 討議内容：地域の連帯感を取り戻すための方策について	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の行事に参加する人が少ないときに、連帯感が薄いと感じる。</li><li>・わたしの隣組は昔からの住民が多いこともあって、連帯感はある。</li><li>・やっぱり、地域の行事に参加する人が少ないのは、どこかに問題がある。</li><li>・自治会等のリーダーに、「自分はこんな自治会にしたい！」とか、「自分の地域をこんな町にしたい！」とか、そんな気概が感じられない。自治会組織にも、少なからず、問題点はある。</li><li>・「人への声かけ」が大切であると思う。最近は、「子ども達への声かけ」、「高齢者への声かけ」、「隣近所の人への声かけ」が失われてしまった。「人への気遣い」、「人への声かけ」が、本当に大切である。</li><li>・「ひきこもりの人達への声かけ」、「子ども達への声かけ」など、日常生活で、最も基本的なことが忘れられている。「呼びかけ」、「声かけ」、「こころの投げかけ」など、わたしたちにできることから始めよう。</li><li>・「声かけのまち：春日市」を創りましょう。</li><li>・「声かけ」、「呼びかけ」をしてあげたくても、今の時代、気軽に声をかけたら、不審者と思われる。現実には、複雑な社会が横たわっているのも事実である。</li><li>・昔のように、人のお世話をする人がいなくなった。</li><li>・地域の連帯感が薄れてきたら、失うものが多い。もっと、「人と人とのつながり」や「連帯感」の大切さについて、話し合うべきではないか。</li><li>・自治会運営も工夫が必要。ただ、回覧板を回すだけでは、なんの伝達にもならない。回覧板で人は集まらない。口コミで、やっと、人が集まるくらい。情報を受け取る側にも責任はあるが、自治会も、情報伝達のあり方を見直した方が良い。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近は、自治会主催の運動会は、参加者も少なく、淋しくなった。運動会をして、隣組の連帯感など感じられない。みんな、「運動会は、もう、やめたほうがいい」と思っているのに、どこの自治会でも、運動会を続けている。</li> <li>自治会も、そろそろ、運動会に代わるものを探さなければならない。</li> <li>・大人の間で、まず、あいさつを交わす習慣をつけたらどうか。</li> <li>あいさつは、心を開く一歩です。心の扉を開く一歩として、あいさつ運動を始めたらどうか。</li> <li>・住民にも責任がある。自治会の総会に出席もしないで、ブツブツ言っている。自治会行事には、無関心。地域の連帯感や地域住民で作るもの。甘えてはいけない。</li> <li>・最近の住民には、自治会費を払う義務というのが理解できていない。自分は自分、人は人という考えを正さなければいけない。</li> <li>・自治会長さんには、強い意志と、強い情熱がほしい。</li> <li>何年も続けておられる自治会長さんを見ると、自治会長というポストが仕事になっているのではないかと思うことがある。あくまでも、自治会長というポストはボランティアであると思う。</li> <li>・マンションに居住している住民の地域活動への無関心さは、なんとかならないものか。</li> <li>・桜ヶ丘の自治会は参考になる。子ども会に入っていようがまいが、みんな同じ。子どもがいる人もいない人も関係なく世話している。また、運動会も、子どもの運動会と地域の運動会を合体させたり、ユニークな地域活動を行っている。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、「あいさつ」を励行しようではありませんか。</li> <li>・「声かけのまち、呼びかけのまち、投げかけのまち “かすが”」をイメージして、その具体策を考えましょう。</li> <li>・地域社会には強力なリーダーが必要。現状を改革しようとするれば、結束力の強いリーダーが望まれる。リーダーの育成が必要。</li> </ul>

【2班】 討議内容：行政の様々な情報を、市民にわかりやすく、正確に伝えるための方法について（市報・回覧板・非常時）

主な意見

市報

- ・市報については、市民の側にも責任がある。市民も自分にとって必要な情報は、自己責任で選択する必要がある。
- ・市報に限らず、市からの情報紙をしっかりと読む人と読まない人の差がありすぎる。また、年代層によっても異なるので、難しい。
- ・市報を読まない人が多いのは、市報が読みにくいのか。それとも、市民に読む意識がないのか。また、市報を読んでいる人は、高齢者が多い。高齢者が多いなら、文字を大きくするとか、工夫も必要。
- ・読ませる側も、誰に読んでほしいのかをはっきりとすべきだ。「どの年代層にも読んでほしい」では、無理がある。ある程度、的を絞ってもいいのではないか。
- ・市報を読めば、生活していくうえで貴重なことが載っている。だから、配布は継続すべきだ。
- ・市報も工夫する必要がある。ホットなニュースがほしい。特集は、その都度やっているが、インパクトが少ない。もっと、大胆さがほしい。
- ・市報は、公共的なものだから、なんでもかんでも載せるわけにはいかないだろうが、もっと、「まちのニュース」を積極的に掲載してほしい。
- ・どの年代層にも読んでもらおうとするのは理解できるが、もっと、的を絞ったほうがいい。「子育て特集」、「介護特集」、「学校特集」、「遊びの特集」、「家庭特集」、「生きがい特集」、「市内観光特集」など、とにかく、的を絞るのもいい。
- ・内容を解りやすくしてほしい。お役所的な言葉使いも再考してみたら。

回覧板

- ・自治会加入者には回覧板があって、未加入者には回覧板がない。これで、いいのだろうか。
- ・自治会未加入者が増えてくれば、地域の情報が伝わらなくなってくる。
- ・「公共的な場」に、回覧を貼り付ける方法も必要だ。
- ・市で、自治会に加入するよう、自治会未加入者に説得していただきたい。
- ・自治会への加入は、その自治会の仕事である。まずは、地域が説得すべき問題である。自治会未加入問題は、なかなか難しい。
- ・最近の回覧板は、眺めるだけで、読む人が少ない。回覧板を読む時間もないほど忙しいのだろうか。それとも、自治会に無関心なのだろうか。
- ・地域の情報伝達の方法は回覧板だけしかないのだろうか。各地域で、もっと、よい伝達方法を考えてみよう。

<p>非常時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時は、ケーブルテレビを活用できないか。</li> <li>・テレビも完璧じゃない。なにかあったときに、一報がほしい。</li> <li>・各個人の家スピーカーを取り付けて、市役所から情報を発信したらどうか。</li> <li>・非常時に、コミュニティバスが必要だが、このバスも動けないような災害ならば、どうしようもない。</li> <li>・緊急通報システムは有効かもしれない。市民の皆さんに、たくさん加入していただくとよい。</li> <li>・情報を取るのが大事。各人がしっかりアンテナを張ることが大事である。ホームページを活用することも大事だが、これも、災害の度合による。ITの活用も、災害の状況によるので、なんとも言いがたい。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報も、もっと、的を絞ったほうがいい。 「子育て特集」、「介護特集」、「学校特集」、「遊びの特集」、「家庭特集」、「生きがい特集」、「市内観光特集」など、なにか、的を絞るのもいい。</li> <li>・読ませる側も、誰に読んでほしいのかをはっきりとすべきだ。 「どの年代層にも読んでほしい」では、無理がある。ある程度、的を絞ってもいいのではないか。</li> </ul>

## 第4回・5回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成17年1月17日(月) / 平成17年3月23日(水)
- 2 時間 14:00~16:30 / 14:00~16:30
- 3 会場 大会議室 / 大会議室
- 4 会議の内容  
 討議テーマ：1班 地域の連帯感を取り戻そう  
 2班 効果的な市民への情報伝達方法について

<b>【1班】 討議内容：地域の連帯感を取り戻そう</b> (具体的な取り組みの手法について)	
主な意見 具体案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、子ども会育成会等が、地域と密着している地区の事例を、市報等で掲載し、市民に、その地域を参考にしてもらう。</li> <li>・各自治会へ地区の状況、地域の連帯感などについて、レポートの提出依頼を行い、その結果を、市報等に掲載する。そのことによって、市民自身が、自分の地域に、より一層、関心を持つ。</li> <li>・各自治会等の役員の定年・任期の設定を行う。</li> <li>・隣組の再考を行う。隣組って、なんだろうか？ 隣組組織の見直し。</li> <li>・ボランティア、趣味、スポーツ等の市内で活動している団体を紹介するパンフレット等を作成し、市民に配布する。</li> <li>・地域の連帯感の必要性についての再確認を行う。</li> <li>・自治会や育成会主催の行事内容の再検証を行う。 (参加者が少ないのはなぜか。また、それは、どこに問題があるのか)</li> <li>・「あいさつの奨励」、「声かけのまちづくり」を運動として取り組む。</li> <li>・人の世話をする「おせっかい隊」を結成する。</li> <li>・地区運動会が衰退している。これに代わるイベントを企画、実施する。</li> <li>・自治会事業等への参加を促すPRを積極的に行う。</li> <li>・各自治会が、自治会活動等についての説明用資料を作成し、地区住民に配布する。</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の役員数の増員を検討する。</li> <li>・自治会役員、隣組長の選出方法を検討する(よい事例を参考にする)</li> <li>・クリーン作戦への未参加者対策を考える。</li> <li>・自治会、子ども会育成会等への未加入者対策を考える。</li> <li>・家庭における子どもの教育や家庭内環境の改善を図るには、どうすればいいのか検討する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者をもっと活用したらどうか。高齢者の活用方法を検討する。</li> <li>・自治会加入など地域連帯についての啓発をマンション関連団体に働きかける。</li> <li>・マンションにおける「ふれあいサロン」(話せる場)の設置を検討する。</li> <li>・自治会の運営方法や役員へのリーダー研修を行う。</li> <li>・回覧板等の市民への情報伝達方法を新たに、考案してみる。</li> </ul>
<p>まとめ</p> <p><b>具体案</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治会への、地区の状況、連帯意識等のレポート提出依頼。</li> <li>・各自治会等の役員の定年・任期の設定。</li> <li>・自治会未加入者に対する自治会の必要性の訴え。</li> <li>・「あいさつ運動」、「声かけのまちづくり運動」の提案。</li> <li>・「おせっかい隊」の結成。</li> </ul>
<p><b>検討事項</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会役員、隣組長の選出方法の検討。</li> <li>・クリーン作戦への未加入者対策。</li> <li>・自治会、子ども会育成会への未加入者対策。</li> <li>・高齢者の積極的活用の検討。</li> </ul>

【2班】 討議内容：効果的な市民への情報伝達方法について	
主な意見 具体案 市報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読者の多い高齢者を対象にして、文字を大きくする。</li> <li>・言葉使いや内容をもっと簡易な表現にする。</li> <li>・特集を組む。</li> <li>・市役所の事務分掌をわかりやすく一覧表で掲載する。</li> </ul>
回覧板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会未加入者にも回覧板（もしくはそれに代わるもの）を回す。</li> <li>・公共の場に回覧板の内容等を掲示する。</li> </ul>
ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所の事務分掌をわかりやすく一覧表で掲載する。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各所の掲示板（例えば、コンビニやスーパーマーケットなど）に、大事なニュースを掲示する。</li> <li>・市内の各種団体を活用した情報伝達を模索する。</li> </ul>
検討事項	
回覧板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市より自治会加入の指導をする。</li> <li>・回覧板以外で、市民への情報伝達のあり方を地区ごとに考案する。</li> </ul>
非常時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルテレビの活用を検討する。</li> <li>・各家庭へのスピーカーの取り付け（有線？）を検討する。</li> <li>・緊急通報システムへの加入を促進する。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民への情報伝達のための「情報マップ」を作成する。</li> </ul>
まとめ	
具体案	
市報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読者の多い高齢者を対象にして、文字を大きくする。</li> <li>・特集を組む。</li> <li>・市役所の事務分掌をわかりやすく一覧表で掲載する。</li> </ul>
回覧板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会未加入者にも回覧板（もしくはそれに代わるもの）を回す。</li> </ul>
ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所の事務分掌をわかりやすく一覧表で掲載する。</li> </ul>
検討事項	
回覧板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧板以外で、市民への情報伝達のあり方を地区ごとに考案する。</li> </ul>
非常時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルテレビの活用を検討する。</li> <li>・緊急通報システムへの加入を促進する。</li> </ul>

もっと暮らしやすいまちづくりのための改善提案（前回までの会議のまとめ）

具体案

- ・ 自主防災組織の結成。
- ・ 自衛隊OB、新聞・牛乳等の配達員を活用した防犯ネットを結成する。
- ・ 災害発生時の避難場所の周知徹底を図る。
- ・ 九州大学院、自衛隊と連携して、地域連帯意識の高揚策を検討する。
- ・ 学童保育所に、看護師の雇用を検討する。
- ・ 派出所の早期設置を要望する。
- ・ 比較的新しい本の受け入れを行う。（市民図書館）
- ・ 掲示板の有効活用を図る。
- ・ 市内の各種団体を活用した情報伝達のあり方を検討する。

検討事項

- ・ 現状の市民への情報伝達方法（掲示板、インターネット、回覧板等）を再考する。
- ・ ペットマナーの指導を行う。
- ・ 公共施設や福祉サービスの利用方法を再検討する。
- ・ 行政施策を市民へ告知するための方法を再検討する。

## 第9回かすが市民懇話会会議録

1 開催日 平成17年11月24日(木)

2 時間 19:00~21:00

3 会場 大会議室

4 会議の内容

討議テーマ：1班 ごみの減量化について

2班 自治会組織の見直し

3班 1日1万歩運動の推進

4班 地域ぐるみの子育て支援

<p>【1班】 討議内容：ごみの減量化について ごみの減量化を図るために、わたしたちは何をすればよいのか。</p>	
<p>主な意見</p>	<p><b>ごみを出す容量を少なくする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・缶を潰したり、ペットボトルを潰したりして、ごみの容量を減らす。</li> <li>・紙類は少なくして出す。</li> <li>・マイバッグを利用して、ごみを作らないようにする。</li> <li>・4月から実施が予定されているごみ処理の有料化は、ごみの減量には有効である。</li> </ul>
	<p><b>重量を少なくして出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみはごみ袋に入れる前に、ごみ袋に事前に穴を空けておき、その袋に、生ごみを入れて、水を切りやすくする。</li> <li>・水切りを徹底する。</li> <li>・生ごみはダンボールコンポストとかを利用して、肥料化できるものはこれを行う。</li> </ul>
	<p><b>再資源化を行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古紙とか布類はなるべく再資源化できるように、廃品回収に出す。</li> <li>・アルミ缶も再資源化できるように出す。</li> </ul>
	<p><b>再利用化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビール瓶や酒類の瓶は、積極的に再利用化を図る。</li> <li>・レジ袋など、何回も利用できるものは再利用を図る。</li> </ul>
	<p><b>分別の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分別の方法を市報や、パンフレット、自治会等で市民に広報し、啓発を図る。</li> </ul>

<p>【2班】 討議内容：自治会組織の見直し</p> <p>自治会の組織を見直すことによって、地域が活性化するか。 もし、地域が活性化するとしたら、自治会組織をどう見直せばよいのか。</p>	
問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区と公民館という二本立ての組織があります。本来は、この両輪がうまく噛み合って、自治会運営が成り立つのですが、これがうまく機能していない自治会が多いのではないかと。</li> </ul>
対応案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区と公民館をひとつに統合し、機能的で、わかりやすい組織にする。</li> </ul>
問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会未加入者が増加傾向にある。</li> </ul>
対応案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な自治会づくりに取り組む。</li> </ul>
問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会長の選考のあり方について。</li> </ul>
対応案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募方式にすると、選ばれる人にも責任感がでるし、地域そのものが透明化、活性化するのではないかと。</li> </ul>

<p>【3班】 討議内容：1日1万歩運動の推進</p> <p>春日市民が1日1万歩を目標に、歩くことを習慣化すれば、健康づくりに効果的であると同時に、医療費の削減にもつながる。</p> <p>私たちが楽しく歩くことを習慣化するために、どのようなアイデアがあるか。</p>	
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康保持や健康増進、また精神的にも効果がある。</li> <li>・渋滞緩和やガソリン代の節約。</li> <li>・『ついで隊』等による防犯効果。</li> </ul>
推進アイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプラリー的なイベントの開催。</li> <li>・市報等による実績紹介。</li> <li>・公民館や老人会等によるきっかけづくり。</li> </ul>

【4班】 討議内容：地域ぐるみの子育て支援

地域の子どもたちを地域で育てるためには、どうしたらよいか。  
自治会の活性化を含めて、考えてみよう。

主な意見

- ・ 全体的に見て、春日市は地域ぐるみの子育て支援には、積極的に取り組んでいるが、地域によるレベルの差が気になる。
- ・ 子ども会は子どもを中心に活動をやっているといこうと叫ばれている割には、まだまだ、子ども会育成会の大人が中心となって行事を行っている。それでは子どもが育たないので、もっと、子ども中心の子ども会にしなければならない。
- ・ 男性が『おやじの会』等で頑張っていますが、もっと、地域に関わっていくようになれば、広い目で見た地域の子育てができるのではないかな。
- ・ 地域で、あいさつとか声かけをする大人が少なくなってきた。もっと、声かけをしたり、また、地域の子どもが気になる行動や服装をしていたら、ちゃんと注意をしたり、叱ったりするような“信頼関係のなかの愛情” というものが大切である。
- ・ 親が地域に馴染めないまま子育てをやっている。  
親が地域の先輩から学ぶ。これをやらないと子どもが育たない。  
ポイントは、素敵な大人が地域に増えれば、子どもが健全に育つ。  
子育て支援を通して、大人と大人がつながり、地域づくりができる。  
地域でも子育て支援の大切さを痛感する。

## 第10回・11回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成18年1月26日(木) / 平成18年3月22日(木)  
2 時間 19:00~21:00 / 19:00~21:00  
3 会場 大会議室 / 大会議室  
4 会議の内容

- 討議テーマ：1班 ごみの減量化について  
2班 自治会組織の見直し  
3班 1日1万歩運動の推進  
4班 地域ぐるみの子育て支援

【1班】 討議内容：ごみの減量化について ごみの減量化を図るために、わたしたちは何をすればよいのか。	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ごみ袋が有料化になれば、出されるごみの量が少なくなり、ごみの減量化が期待される。</li><li>・レジ袋を有料化すれば、ごみの減量化に効果がでると思う。行政から業者に対し指導できないか。</li><li>・消費者団体に、発泡スチロールのトレイなどをなるべく使わないように働きかけたらいいのではないか。</li><li>・生ごみ処理機購入費の補助ができないか。春日市ではマンションが多いので、家庭用生ごみ処理機は有効だと思う。</li><li>・病院、給食センター等の公共施設や民間の事業所などに対するごみ減量の指導。</li><li>・大量のごみを排出する事業所への啓発。</li><li>・マンションでは、古紙を廃品回収に出しているところが少ないので、マンション住民への啓発。</li><li>・マナー的なものと個人でやるものをいかに11万市民に広げていくかというところが大切です。</li></ul>

<p>【2班】 討議内容：自治会組織の見直し</p> <p>自治会の組織を見直すことによって、地域が活性化するか。 もし、地域が活性化するとしたら、自治会組織をどう見直せばよいのか。</p>	
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会と公民館を一体化し、自治会組織の見直しを図ったらどうか。公民館というのは、自治会の中の一部の組織として、また、自治会の下部組織として位置づけられています。 これを、両者が一体となった自治会組織にできないか。</li> <li>・自治会組織とともに、自治会のリーダーである自治会長の選考方法について再考が必要である。</li> <li>・集合住宅を抱えている自治会の問題点はなんなのか。</li> <li>・自治会役員にもっと女性を登用すべきである。</li> <li>・市からの補助金を一本化し、用途については、自治会（地域住民）に任せる。</li> <li>・自治会に新しい人が入ってくる一方で、昔からの住民がいます。これらの人々がうまく融和していくことが、これからのまちづくりには重要だと思う。</li> <li>・昔から、『向三軒両隣』という言葉があります。 これからの地域づくりには、『向三軒両隣』のよさを見直すべきではないか。</li> </ul>

【3班】 討議内容：1日1万歩運動の推進

春日市民が1日1万歩を目標に、歩くことを習慣化すれば、健康づくりに効果的であると同時に、医療費の削減にもつながる。

私たちが楽しく歩くことを習慣化するために、どのようなアイデアがあるか。

主な意見

- ・実際に歩くことを習慣化している人の体験談や効用などを市報に掲載すれば、日頃、歩かない人には刺激になってよいのではないか。
- ・各人が持っている体力の不安要素を箇条書きにしたノートに、歩くことによって病状が改善した場合、医者から病状改善報告書を書いてもらう。それを市民に広報するのも効果がある
- ・市報に、「健康欄」を設けて、その欄の中で、歩くことの効用を掲載する。
- ・歩くことだけを目的とせず、例えば、『ついで隊』のように、何かをするついでに歩く。
- ・春日市が歩こう運動を推進しているということを市民に宣言し、市民のみなさんに、この運動を周知していただきたい。
- ・市内には、自治会、公民館、PTA、体育協会など、いろんな団体がある。これらの団体が協力し合って、歩こう運動を盛り上げていくことが大切。

【4班】 討議内容：地域ぐるみの子育て支援

地域の子どもたちを地域で育てるためには、どうしたらよいか。  
自治会の活性化を含めて、考えてみよう。

主な意見

- ・自治会活動がより活性化すれば、子育ての支援体制も充実していくのではないかと。
- ・最近、自治会に加入していない人や近所との付き合いがない人が増えています。そのせいか、昔、言われた“向三軒両隣”のような、隣近所との連帯意識が薄れてきています。このような状況が、子育てにひずみを起こしています。  
まず、この“地域のあり方”を見直すことが大切である。
- ・子どものコミュニケーション能力が不足していると言われていますが、コミュニケーション不足なのは、子どもより大人の方ではないかと。  
家族でも、夫婦でも、親子でもコミュニケーションがあまりとられていない状況にある。そういう家庭が多くなってきた。  
この辺に問題であると考えます。
- ・地域の大人が地域の子どもと真剣に向き合っていくことが大切だ。  
そうすれば、大人が変わり、そんな大人とふれあった子どもの人生も変わってくる。まず、大人が地域と向かい合うことが重要だ。
- ・親の姿勢が子育てには一番大切である。  
親が育たないと子どもも育たない。
- ・これからの子育ては、地域と学校、家庭の連携が必要であると思います。  
また、地域と学校との連携には、校区の見直し等も必要である。
- ・地域のなかで公民館を子育て支援の場として活用できたらいい。
- ・地域の大人が地域の子どもの面倒を見る。それもボランティアという形ではなく、有償という形をとれたらいい。そうすることによって、地域に無関心な人が、地域に目を向けるようになるのではないかと。

# かすが市民懇話会 第 1 期会員レポート

私たち『かすが市民懇話会』第 1 期会員が、2 年間の活動を通して感じたことをレポートにまとめました。

## 金子昌隆（団体推薦会員：昇町）：かすが市民懇話会会長

### 市民懇話会を振り返って

この会は、平成 16 年、市民の生の声や生活者の視点からの意見を市政に反映させることを目的に、市民の新たな市政参加の場として設けられ、市内の公共的団体などが推薦する会員と公募による会員で構成されました。

市内各団体の中から 10 名、市民一般公募から 10 名、あわせて 20 名の委員で始まった市民懇話会に、私は市 PTA の代表として市民懇話会の一員として参加いたしました。

市民懇話会の主旨を伺ったときに、とても嬉しく思ったことがありました。それは市民懇話会とは市民懇話会委員と行政が壁を作ることなく、春日市における環境、教育、生活、行政など、どんなことでもかまわない、良い部分も好ましくない部分も語りあい、知恵を出し、より良い春日市を目指したいという主旨でありました。

それは新たな発見と言うことにも通じるものでした。

いろんな会合や会議・審議会などで一定の課題に基づいて進めていく内容とは違って、課題そのものも市民懇話会の会話の中で決めるという自由性がありました。

一般的に、会議の後で雑談をしている光景を見ることがありますが、その雑談の中にこそ、真意があり、アイデアがあり、実効性があるものです。

そうした自由性と発案性のある雰囲気作りの市民懇話会を目指そうという皆さんの意見で市民懇話会がスタートしました。

そうした市民の生の声の中にこそ、春日市が必要とする「これからの春日市の地域性と行政のあり方と役割」が見えてくることを行政は期待したものだと思います。

人の顔色を気にせず、上下関係を気にせず、利害を気にせず、立場を気にせず、方向性を気にせず、意見が異なっても衝突せず、色々な視点と発想から話を進められることが最大の特徴でもありました。

そうした皆さんの力強さをいただき、市民懇話会第一期生として会長を務めさせていただきましたことは、この上ない感謝で一杯でありました。

当初、どのように進めていけばいいのだろうかと悩んだものでしたが、皆さんの温かい眼差しのおかげで二年間務めることができました。ありがとうございました。

市民懇話会の話しの中で皆さんと接し、私自身が皆さんから「地域づくり」としてのヒントをいただいたような気がしてなりません。

最初は課題を探る為に、「春日市のここが好き、ここが嫌い」といった、アンケートから始まり、その結果、「なるほど、なるほど、いろんな見方もあるんだなあ」と感心さえもしたものでした。

委員各人は、それぞれの道で頑張っておられる方々でありましたし、それぞれの道で苦労もされ、努力もされていることが見えただけでも大きな収穫でありま

した。だからこそ一つの課題があっても違った方面からの解決へのヒントやアイデアや意見が出てきました。

これこそが、今一番大切なことなのでしょうね。

数々の懇談の中で出された意見や情報の提供及びアイデアが春日市行政に活かされていければ幸いです。

この市民懇話会は、要望団体でもなければ、押し寄せ団体でもありません。

若い頃（今も若いつもりですが）友達や仲間と「夢」を語り明かしたことがありましたが、その再来のような気がしていました。

そして、この機会をいただきました市長さん、市民懇話会のみなさん、そして行政担当の方々、ありがとうございました。

第一期卒業生として、これからも春日市の発展と地域の市民として、そして、未来を担う子どもたちや地域の宝でありますご年配の方々が安心して暮らせる街づくりの為に頑張ってまいります。

## 西川文代（市民公募会員：須玖南）：かすが市民懇話会副会長

### 市民懇話会を終えて

市民懇話会の第一期会員として活動させていただき、他の会員の方々と率直な意見を交わす中、気がついたのは、「皆、同じような悩みを持ち、同じような夢を持っている。」ということでした。又、各地域をよりよくしようと前向きに取り組んでおられる会員の方々との触れ合いは、とても有意義で勉強になり、壁を乗り越え前進する勇気と元気をいただきました。

今後は、家庭や地域において、夢の実現に向かって一步一步前進することにより、「もっともっと好きな春日市」に協力できる市民の一人になりたいと思います。そして、人との出逢いと触れ合い、信頼関係を大切にし、生きがいと喜びのある日々の生活から、子ども達に大切なことを伝えていける「輝く大人」でありたいものです。

## 久原宗士（市民公募会員：昇町）

### 結果が見える市民懇話会

「そうになったら、いいのになあ」

これは最初からの願いでもあった。

第1回目の募集に応募させてもらった。

<春日市の好きなところ、嫌いなところ>

というテーマの作文を書き送る事だった。

市政についての問題点を中心に据えて、大ざっぱに考察するのもよいし、現状の不備を叩いて、改善の手法を模索していくか、期待は大きく膨らんでいきました。

『市政の出前トーク』は、一種の直訴的な力を保有しており（？）行政の方も真摯に対応してくれて、その効果は市民が素直に納得できるものであった。

それに対し、懇話会は論議するテーマに対しても、常に不完全燃焼の感を払拭できない。

市政に吸収されたという喜びを得る事はなかなか難しい気がしてならない。

「市政に反映させる」という目的が達成されていることの確認等行われる事は大切な事ではなかろうかと思う。

懇話会の議論は絵に画いたモチでしかないのであれば、遅かれ早かれ飽きられてしまう。

議論の一つ一つが重みを持ち、ことばが生きている事を認知できるならば、「市政に反映される」という実感で、今後には有意義なものを伝え、残していくことができるだろうと思う。

「目に見える形での結果」は大切です。

これは市民が真ん中をシンボルに、透明で理解され、納得される市政の理想像であるかも知れない。

市民懇話会が、真に市政のカンフル剤的存在として、ますます健全な歩みをされます様に、一期生の一人として御期待申し上げます。

## 長野昇次（市民公募会員：白水ヶ丘）

### 市民懇話会を終えて

現役時代は永年消費者関連の仕事に携わっており、企業の中にあって、常に生活者の視点から、ものごとを觀たり、考えたり、対応する立場にありました。このような経験が少しでも役に立てばと、懇話会の趣旨に賛同し、第一期会員になりました。

振り返ってみますと、あっという間の2年間でした。

市民懇話会は審議会ではないので、堅苦しくなく、構えて臨むこともないので、気楽な気持ちで論議に参画することが出来ました。

強く印象に残っていることは、どの地域も共通して、連帯感、交流が最大の課題でありこれらの課題をどう解決するかの論議を何度も重ねたことです。課題があまりにも大きくこれという妙案は、なかなか見つかりませんでした。しかし地域のあり方を改善する上においてヒントになるものは、いくつかはあったように思います。

またメンバーは、幅広い分野から選出されており、年代もバラエティーに富んでおり、いろいろな考えを聞くことができ、大変勉強になりました。

さらにメンバーの発言のなかから、多くの情報を得ることができました。これらの有意義な情報を、今後の地域活動の活性化に生かしていければと思っております。

市民懇話会のメンバーとなつての副産物として、以前よりは格段に、市政に対する関心度が高くなり、また地域活動に、より積極的に関わるようになってきました。懇話会で得たことを参考にし、地域に貢献していきたいと思っております。

行政側は、懇話会で論議された内容で有意義なものは、市政に反映するという立場にありますので、提言されたものがどうなっているのか（どのように生かされたか、検討中か、反映が難しい等）の経過を適宜知らせていただければ、会の励みになるのではないかと思います。

われわれ一期会員は、期待には十分に応えられなかったかと存じます。今後は二期、三期のメンバーの方々に託したいと思っております。

## 古川秀樹（市民公募会員：宝町）

### 市民懇話会第一期を終えて

市民懇話会第一期を終えて、市民懇話会の持つ意義や今後の方向性が見えてきたような気がします。

本来、コミュニティの主体は地域住民（市民）であり、市民が話し合っ将来像や目標を設定していました。仕事や家族状況など取り巻く環境が多様化している現代では、人と人のつながりが希薄になり、コミュニティが崩壊しつつあります。

コミュニティの本来あるべき姿を復活させる方法として、市民懇話会活動は非常に有効な取り組みだと思います。市民懇話会でいろいろな人と知り合い、いろいろな話をするにより、自分たちが主体であることを再認識できると思います。人と話をして自分の考えを整理し、できることから、できる範囲で、自分のペースで始めていけばよいと思います。

小生は、現在、小学生のソフトボールの指導、春日市環境審議会、福岡県地球温暖化防止活動等を行っていますが、これからはそれらの活動を通してコミュニティ再生を意識しながら取り組んでいきたいと思います。また、コミュニティ再生のための有効な方法の模索、他の人へのPRやアドバイスも併せて行っていきたいと思っています。

## 福富幹男（市民公募会員：惣利）

### かすが市民懇話会第1期会員終了報告

第1期会員として2ヵ年間「かすが市民懇話会」に参加し、住みやすいまちづくりのために少しでもお役に立つべく、市長さん、行政管理担当の方々の行政上の諸施策を拝聴し、意見交流を行い、他の会員の方々と屈託のない討議をして参りました。

この2ヵ年間の懇話会において、会員から数多くの多岐にわたる貴重な意見が出されて、前向きに討議を重ねるうちに、推進すべき内容（課題）が漸次整理されて、テーマが大きく4つに絞り込まれてきました。

かすが市民懇話会が活動を始めてから2年間のうちには、一例を挙げれば、討議の初期段階においては大きなテーマの一つであった「行政のさまざまな情報を市民に、わかりやすく、正確に伝えるための伝達方法」等において見られるように、例えば、伝達方法の主役と考えられた「市報」が発刊の度にあらゆる面で改善を重ねられ、市政、年次の事業計画・推移・決算、諸計画（プラン）、施設、行事等が目的毎にかつタイムリーに編集され、市民に分りやすく親しみやすい紙面となり、見違えるほど生まれ変わりました。あわせて、市のホームページも経時毎に充実し、内容が豊富になりました。市政の内容や動き、市民参加のためのイベントの予定等が一目で把握でき、まさに市民に役立ち、市民として一読しておかねばという気を誘発させるようなものになったと実感しております。これらは、この会の討議内容等が行政上の具体的な参考（ヒント）となり活かされた成果ではないかと存じます。会員の一人として喜びにたえません。

今一つ、地域の有効な防犯活動の一つとして「ついで隊」や「防犯パトロールチーム」が実り、多大な効果をあげるようになったのも、かすが市民懇話会における討議が一つの推進役を果たしたのではないかと推察しています。私自身会員となって初期の討議において他県における類似の活動を参考にした発想で「ながら隊」の活動を提言したこともあり、この防犯活動が実現したことが喜びの一つです。

さて、私は、最近のグループ討議においては、第2班の「自治会組織の見直し」のメンバーとして参加してきましたが、班員のおおよその意見は収斂方向にはあったものの、自治会及び公民館の組織・運営のあり方、一体化案などの核心や具体案についての討議はこれからであり、各地区の実態調査等に取りかかった段階であります。この問題については、これからの懇話会の活動で更に絞り込む必要があります。今後のかすが懇話会における継続すべき重要なテーマだと考えます。現段階のままこの自治会・公民館の組織問題を終えてしまうのは余りにも中途半端過ぎて、市政・行政上の参考にも提言にもならないと考えます。また、この「自治会組織の見直し」の討議グループには実務経験が豊富で中心的役割を担ってリードしていただく会員がおられるので問題はありますが、このテーマへの参画志望者が少ないという実情もあり、今後の討議の進め方には一工夫を要するよう感じます。

また、これまでのかすが懇話会を通じて、私の今ひとつの大きな関心事は、「地域住民の交流と連帯感」や「向三軒両隣」のあり方等に関するテーマであり、防災・環境問題であり、教育問題でありましたが、これらの課題も未だ議論百出の段階で終わっております。

以上のような問題（テーマ）については、第3期生としての今後の活動において前進が計られるべく推進いたしたいと考えております。

## 堀ノ内陽子（団体推薦会員：上白水）

### 第一期の懇話会に参加して

団体推薦で参加して、始めは???マークがいっぱいでした。市は何を求めているのか？何を話し合い、進めていくのか？と。

しかし回を重ねるごとに、少しずつ話す内容が決まっていき、深く話すようになり、いろんな方の想いや考えが出てきました。

私は、話の内容もおもしろいと思い始めました。

しかし、話しより、市民がこんな想いを持っている。皆、想いは一緒だという事に、もっとおもしろみがでてきました。

私の周りでも、とても良い考え、想いを持っている人はたくさんいますが、想うだけでは何も動きません。

この懇話会では、その想いが形に、動きになる。そう思いました。

何故なら、市の方も一生懸命だからです。

気持ちが一生懸命なのが、伝わってくるからです。

きっと、市民の必要とする声を形にしてくれる。

それが懇話会だと確信しています。

その懇話会に関わってほしいと思い、もう1期、市民の代表として参加させていただきました。もっとおもしろい懇話会になればいいなと願っています。

そして、市民が、春日市で良かったと思える何らかの助けができればと思っています。

懇話会を意味あるものにしていきたいです。

## 松崎智子（市民公募会員：若葉台西）

### かすが市民懇話会を終わって

「春日市のここが好き・ここが嫌い」の作文を書き、改めて「わがまち春日」を意識しながら話し合いを重ねた2年間。その間市内のいろんな所で誠実に生きていらっしゃる方々との新たな出会い。楽しいお話を聞いてよかったです。

市長さんを始め市職員の方たちの政策に対する話、私たちの要望に実直に回答され、或いは実行された事はありがたく、今までにも増して市政に関心を持つことが出来ました。

そして今回の「男女共同参画を推進する条例（案）」について、すでに新聞報道もされ皆さんもご承知の事と思いますが、「原案」も「修正案」も継続審議になりました。

かねてより「男女共同参画社会」の実現を図るため、国・県をあげて推進条例を作り、推進計画をすすめています。

春日市も「春日市男女共同参画審議会」が出来、近隣市町での最後に作る条例だから市民にとって良い条例をと、何回も公聴会が開かれ「推進する条例」の原案ができ、6月議会に提案されました。

私たちも遅ればせながらよく出来た条例を持てることを喜びました。

ところが継続審議となり、8月末、新たに修正案が提案されました。

しかも男女共同参画社会の推進について、市と市民、事業者の「責務」を「役割」とし「苦情処理委員」の設置、DVやセクハラなどの防止と被害者支援を行う、を削除。原案は41条あった条例が22条と半分になり人権侵害救済が後退したものになりました。

この間、私たちは文教委員会、議会傍聴など修正案が可決されないように働きかけをし、また原案賛成の議員さんたちも積極的に動いてもらい修正案も継続審議となりました。

この「条例」の件を通じて思ったことは、私たちが市政に参画できる場「市民懇話会」の存在です。この期間にどれほど「懇話会」の皆さんへ声かけをしようかと思いながらどこまで修正案を知らせていいものか。私の知識の無さと、情報の公開という言葉についての迷いで一歩が出なくて、「市民の交流と連帯感」と頭では分かっていますが、勇気と実行力が足りませんでした。

そして、もしこの修正案が議会で可決された時、一部の市民しか知らないのにそれが条例として実行される不安でした。

このことにより、市の政策をより身近に参画することの重要性を感じました。今度ほど市民ネットワークの必要性を感じたことはありません。

『春日市男女共同参画を推進する条例』につきましては、平成18年第4回（12月）春日市議会（定例会）において、可決いたしました。

## 松本健藏（市民公募会員：白水池）

### 市民懇話会会員一期生終了にあたって

私はどうも話下手で加えて難聴、懇話会会員としては不向き。だけれども競技会に出場する弱い選手が負ける言い訳に「参加する事に意義がある」と言った？ そうだ、その心意気で。それと我々一般市民が懇話会を通じて市政に多少なりとも参画できる場を設けていただいた折角の良い機会だと思い参加させていただきました。

懇話会に参加して感じた事は、私を除き他の皆さんそれぞれ知識、感性、発想等豊かな人ばかりで、私は圧倒されどおしの二年間で非常に勉強になりました。

会話の内容は自治会活動、地域の連帯感、情報伝達等々、多岐多様に亘りましたが、それぞれの立場から率直活発な意見で大変良かったと思います。私自身の立場から一つだけ強調したいのは高齢者の健康維持推進について、引き続き私の課題として「健康で長生き」をめざしたいと思っています。

なお会期中、特に感動したのは市長さんが直接熱心に耳を傾け、ざっくばらんに話し相手になる、その真摯な態度姿勢です。

本当に頭が下がりました。最後に市担当者の皆様大変お世話になり有難うございました。

今後とも会のため引き続き頑張ってください。

## かすが市民懇話会会員名簿（第1期生）

（任期：平成16年7月1日～平成18年6月30日）

	氏名	住所	備考
1	糸山 紀子	大字上白水	団体推薦会員(春日市商工会)
2	井上 康範	下白水北7丁目	団体推薦会員(JA春日支店・農協理事)
3	金子 昌隆	昇町1丁目	団体推薦会員(春日市小中学校PTA連絡協議会)
4	久原 宗士	昇町1丁目	市民公募会員
5	神路祇 弘	ちくし台1丁目	団体推薦会員(春日市老人クラブ連合会)
6	坂井 美恵子	須玖南6丁目	団体推薦会員(春日市ヘルスリーダーの会)
7	白水 清光	春日2丁目	団体推薦会員(春日市文化協会)
8	田川 佐智子	上白水6丁目	団体推薦会員(春日市身体障害者福祉協会)
9	永利 五十鈴	昇町1丁目	市民公募会員
10	長野 昇次	白水ヶ丘2丁目	市民公募会員
11	中村 一登	日の出町2丁目	団体推薦会員(春日市子ども会育成会連絡協議会)
12	中村 芳秀	春日9丁目	市民公募会員
13	西川 文代	須玖南4丁目	市民公募会員
14	日高 巖	若葉台西7丁目	市民公募会員
15	福富 幹男	惣利5丁目	市民公募会員
16	古川 秀樹	宝町4丁目	市民公募会員
17	堀ノ内 陽子	上白水9丁目	団体推薦会員(春日市社会福祉協議会)
18	松崎 智子	若葉台西4丁目	市民公募会員
19	松本 健藏	白水池2丁目	市民公募会員
20	矢野 敬子	須玖南8丁目	団体推薦会員(春日市体育協会)